

瀬戸内海わくわくワーク探検隊！！

三次市立酒河小学校 対象学年（5年）

体験活動の種類 **自然** **勤労生産** **交流**

体験活動場所 国立江田島青少年交流の家

【学校紹介】

○学校教育目標

「自らを高め、ともに学び合う子どもの育成」

～酒屋を愛し、酒屋を誇りに思い、酒屋をよりよくしていこうとする態度の育成～

○研究目標

「児童が主体的に取り組むことのできる生活科・総合的な学習の時間の在り方」

～児童が探究的に活動するプログラム開発を通して～

○歴史と近代化の共存する地域

- ・ 矢谷古墳，高塚古墳，花園遺跡，下本谷遺跡などの史跡が多くある。
- ・ 一方，校区内には，中国自動車道三次 IC，マツダ三次工場，三次ハイテク団地，奥田元宋・小由女美術館，三次ワイナリー，ピオーネ生産団地，みよし運動公園，三次中央病院などの近代施設も増えている。

○地域の子どもを地域で守る風土

- ・ 酒屋コミュニティセンターを中心とする地域行事
酒屋ふるさと祭り 山の日イベント
川と親しむ会 町内史跡めぐり
スキー教室 とんど祭り など
- ・ 登下校の見守り隊活動
- ・ 保護者による読み聞かせ活動

子どもたちの関心も高く、積極的に参加している。

- 本校児童は、素直で明るい。しかし、小規模校であるため、人間関係の拡がりを作りにくい傾向がある。また、児童の多くは、生まれながら県北部での生活がほとんどで、海や島しょ部での生活に触れる機会が少ない。



たこつぼ漁体験

- 校長名：田村 浩章
- 児童数（学級数）：140名（8学級）
- 所在地：三次市西酒屋町804
- 電話番号：0824-62-2485
- URL：<http://www.sakegawa-e.hiroshima-c.ed.jp/>

【体験活動のねらい】

- 宿泊体験活動や地域の人々との交流活動を通して、よりよい人間関係を築きながら、自ら進んで働こうとする態度や規範意識，コミュニケーション能力等の社会性を身に付ける。
- 島しょ部の人々との交流や体験活動を通して，文化や産業，地域の人々の暮らしの知恵や工夫に気付き，自己の生き方を考える。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
5月 ～ 7月	事前学習 ・概要説明 ・学習テーマの設定 ・下調べ ・班別の目標設定 ・しおりの作成 ・受入先等へ依頼 ・規範意識の向上(道徳等を通して)	10	総合的な学習の時間 社会 理科 国語 道徳	学校	担任
7月	宿泊体験活動(3泊4日) ・自然体験 ・海での水泳体験 ・地元の小学生や漁師さんとの交流 ・古代の人の塩作り体験 ・カッター体験 ・奉仕活動 ・野外炊飯	24	学校行事 総合的な学習の時間 家庭 社会	江田島青少年交流の家 蒲刈島(潮騒の館他)	施設の方々 地元地域の方々 本校職員
9月 ～ 11月	事後指導 ・お礼の手紙作成 ・体験活動の感想文作成 ・道徳の時間(自然愛, 感謝) ・活動のまとめ ・成果発表会の計画, 準備, 資料作成等	16	国語 道徳 総合的な学習の時間	学校	担任
11月	学習発表会(成果発表会) ・体験活動の発表 ・作品の掲示	2	学校行事 総合的な学習の時間	学校	担任

【体験活動の概要】

○江田島市立切串小学校との交流活動

《出来事短歌》

太陽が 海に当たって きらきとと 海が届ける 宝石のよう

- ・ お互いの地域学習の内容を伝え合う場を設定することで、地域による特性の違い、お互いのよさに気付くことができました。
- ・ 数時間を切串小学校で過ごすことで、磯の香りや眼前に広がる海などを肌で感じる事ができました。



給食交流



レクリエーション



地域学習発表会

○蒲刈島でのたこつぼ漁体験、藻塩づくり体験

《出来事短歌》

たこつぼ漁 たこがぬるぬる すりぬける みんなで持ち上げ わっしょいわっしょい

- ・ 呉市蒲刈島にて、たこつぼ漁や古代の藻塩づくりを体験した。文化や産業、地域の人々の暮らしの知恵や工夫に気付かせる。
- ・ 仕事に従事される方々との触れ合い、仕事に対する思いに触れることを通して、自己の生き方を考えさせる。



藻塩づくり体験



たこつぼ漁体験



○奉仕活動（蒲刈島での海岸清掃）

《出来事短歌》

だんだんに きれいになってく 砂浜を かけて言いたい 「ありがとう」と

- ・ 児童とともに内容を計画する段階から、お世話になる地域や施設の方へ感謝の気持ちを表すことができないかを考え、海岸清掃をすることとした。
- ・ 感謝の気持ちを意味あるものとして表現するために、体験活動と奉仕活動を関連付け、藻塩づくり体験をした海岸の清掃をすることとした。



蒲刈島での海岸清掃

【体験活動の効果高める事後学習】

○道徳での事後学習

海での自然体験で育った価値を深めるために、「自然愛」をテーマに事後学習を行った。導入では、体験活動で触れた海ホタル、たこを想起させ、終末には、体験活動の映像や活動後に書いた児童の作文※を用い、体験活動との関連を図った。

- ・ 主題名 「自然への思い」 内容項目 3－(2)
- ・ ねらい 世界初のトンボ保護区づくりに取り組んだ杉村光俊さんのトンボへの気持ちを考えることで、私たちの生活と自然とのつながりや自然の偉大さを理解し、健全な自然環境を守ろうとする態度を養う。
- ・ 資料名 「世界初のトンボ保護区づくり」 出典（5年生の道徳 文溪堂）

※児童作文

「私ができる小さな努力」

私は、七月六日から九日まで江田島に体験活動に行きました。カッター研修、たこつぼ漁、も塩づくり…。三次では、できないことをたくさん経験して、思い出をたくさんつくりました。

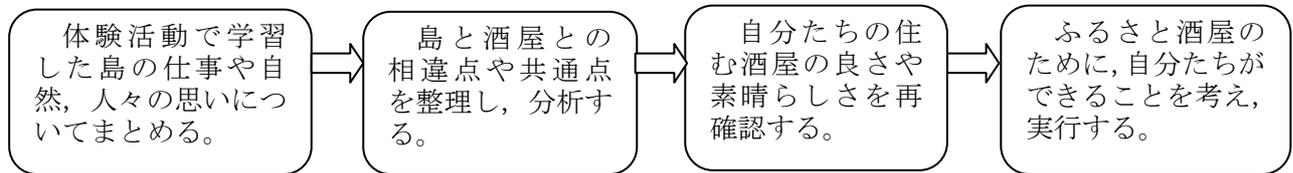
なかでも一番心に残ったのは、夜、見に行った海ホタルです。なぜかという、きれいだったというのも理由の一つですが、一生けん命光を出している海ホタルを見ると、心があたたかくなって、落ちつくことができたからです。海ホタルの光は、あわい水色です。そのような光を見ていると、心が和み、とても気持ちが落ちつきます。

しかし、海ホタルの住んでいる海は、最近とても汚れてきています。私は、海ホタルや魚が気持ち良く住める海にしたいと思いました。でも、私が住んでいるのは山です。だから、海をきれいにすることはかんたんなことではありません。しかし、川をきれいにすれば、海がきれいになるということが分かりました。だから私は、川をきれいにしたいと思います。

これからは、海ホタルや魚たちが気持ち良く住めるように小さなことでもやりたいと思います。

○総合的な学習の時間『わくわくワーク探検隊』での事後学習

- ・ ねらい 体験活動で学習した島の仕事や自然、人々の思いをまとめたり、自分たちが生活する酒屋の自然や人々の生き方を比較したりする。また、収集した情報を整理、分析することを通して、酒屋の良さや素晴らしさを知る。



【交流先や施設等との連携】

○事前

- ・ 事前に現地に出向き、施設担当者や体験活動指導者等との打ち合わせを行った。また、電話での連携も繰り返し行い、体験活動プログラムを作成した。

○活動中

- ・ 活動前には、指導担当者と打ち合わせを行い、学校側のねらい、評価、児童の実態（体調等）、安全面などについての打ち合わせを行った。

○事後

- ・ 学校からの礼状、児童からのお礼の手紙や活動時の写真等を送付した。

【評価の工夫】

- 体験活動の事前と事後に児童及び保護者アンケートを実施した。事前に行った児童アンケートの結果から、活動内容の中で特にどの指標に重点を置いて指導するかを明らかにしておいた。そうすることにより、活動前には児童に対し、何を目的とする活動かを伝えることができ、活動後の振り返りの際にも、視点をしぼった振り返りをする事ができた。

- 活動後には、まず全体指導の中で口頭での振り返りをし、個人では振り返りカードを用いて自己評価を行った。自己評価や児童同士の相互評価、指導者からの評価を繰り返すことで、児童の学び方やものの考え方が確かなものになるようにした。また、振り返りの内容を指導者が把握し、事後学習の計画や指導、助言の手がかりとした。

振り返りカード

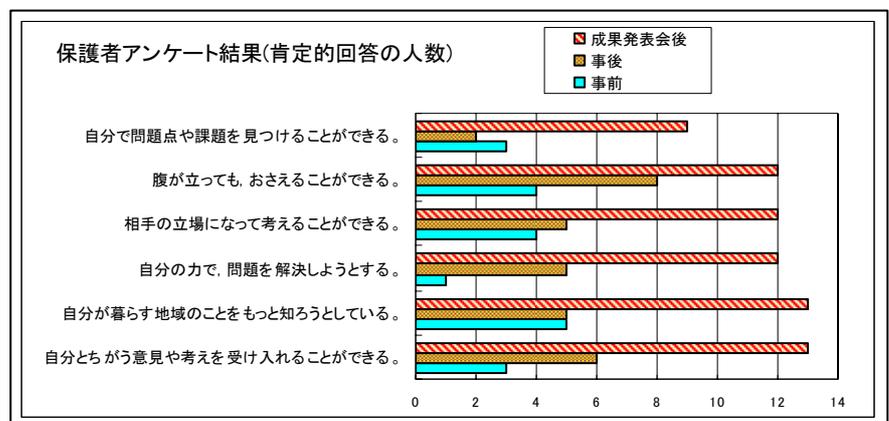
- 活動中に、家族への手紙を書く活動を行い、3日目の夜には、家族からの手紙を読む活動を行った。また、活動後には、施設やお世話になった方へのお礼の手紙を書く活動を設定した。書く活動を設定することで児童の思いや心の変化を読み取ることができた。
- 学習発表会（成果発表会）を実施し、体験活動で学んだことを、地域、保護者、他学年の児童へ向けて発表した。児童は、自分たちの成長や変化を伝えることや他者（保護者、地域の人）からの評価をもらうことにより、成長を再確認することができた。

【安全面の配慮事項】

- 事前下見を行い、施設や地域指導者との打ち合わせを行う。
- 事前に健康調査を実施した。参加には医師の同意が必要な児童もおり、保護者への説明では、できるだけ具体的に活動内容や配慮事項について説明するよう留意した。
- 緊急受入が可能な病院についてその所在地や万一の場合の搬送方法について確認した。また、携行する医薬品については、あらゆる状況に対応できるように準備した。
- 体験活動中は、集合時に必ず健康観察を行い、声をかけたり、活動に制限をかけたりするなど、体調に合わせて活動させるようにした。
- プログラムが過密になると、安全面や健康面での不安が増し、児童の様子への把握が難しくなるため、余裕をもった計画が大切である。

【体験活動の成果と課題】

- アンケートの結果や日頃の児童の様子から、特に「課題を解決する力」や「郷土愛」、「他者への思いやり」、「コミュニケーション能力」等の社会性が育ってきたことが伺える。(保護者アンケート結果 参照)



- 島の人々との交流や体験活動を通じて、文化や産業、地域の人々の暮らしの知恵や工夫に気付くことができた。
- 3泊4日家族と離れ、友だち同士で関わり合いながら様々な活動をする中で、児童は自らの行動を振り返ったり、家族への感謝の気持ちを抱いたりすることができた。

《児童の感想から》 「少し成長した私」

私は、江田島の体験活動に行きました。私は、その体験活動で学んだことが何もありました。中でも家族とはなれて生活したことが一番心に残っています。

私ははじめ、「お母さんとはなれて生活するってどんなのかなあ、楽しみだなあ。」と思っていました。しかし、体験してみるとけっこう大変でした。何が大変かというと、自分で自分の管理をすることです。

例えば、朝、自分で起きることです。ふつうは家の人に起こしてもらったり、めざまし時計で起きたり、何かにたよっていました。でも、私が泊まった江田島青少年交流の家は、規則正しく生活をする場所で、6時40分には起きておかなければなりません。だから、友だちに起こしてもらった時もありました。

他にも、大変だったことは、寝るじゅんぴをすることです。先生が「シーツは、自分で持っていき、自分でしいて寝てください。」と言われました。みんなにはいつものことだけど、私は全然慣れていません。だからとても時間がかかりました。

という風に、私は知らず知らずのうちに母にやらせてばかりだということが分かりました。私の知らない所で母がとても苦労しているということが江田島での体験ですいぶんと分かりました。これから、家族と協力してがんばっていきたいです。

《体験活動後の保護者の感想から》

家に帰ってきて、すぐ「夜、一人で寝られる。」と言っていました。また、「おれ、何でも一人でできるけえ。」とも言っていました。いざ、寝るときになるとやっぱりさみしくなって、みんなと一緒に寝ましたが…。しかし、自分でできると思ったということは、自分に自信がついたのだと思い、うれしかったです。

- プログラムの中に、体験活動を多く取り入れ過ぎた。活動の中で児童が試行錯誤できるようにプログラムに余裕を持たせることが必要である。
- 個々の児童に目を向けると、意欲面で課題があるものもあり、活動中に助言をするなど支援をしたが、十分に改善を図ることができなかった。指導者同士で連携をとり、多様な関わりが必要だと感じた。
- 活動内容を精査することの必要性や施設、指導者等との連携の大切さを感じた。内容については、児童実態、実施時間、準備・片付け時間、活動場所、職員分担、指導効果・意義等様々な面を考慮して決定する必要がある。また、多方面、多量、迅速な連携が必要であり、綿密な連携を常に心がけることが大切である。